

ASEAN の通信市場概況

株式会社クララオンライン
コンサルティングチーム

<要約と結論>

本レポートでは ASEAN に加盟する 10 カ国について、基本情報およびスマートフォンを含む携帯電話加入者数・普及率、ブロードバンド加入者・普及率について整理した。あわせて主要な通信事業者の契約数や市場シェアにも触れており、各国の特筆すべき特徴や 4G(LTE)の準備状況についても公開情報をまとめた。

レポートの後半では、IT サービスの消費ターゲットとなりうる中上位収入層を対象にした調査結果から、スマートフォンやパソコンの保有状況やサービスの利用傾向を探った。いずれの国においてもパソコンの代替としてスマートフォンを利用する傾向がみられ、利用する場所やよく使うサービスにも特徴が現れていることがわかった。

スマートフォンの保有率は各国とも上昇を続けているものの、多くの国ではまだ若者を中心に限られた人しか利用していない。英語話者の多い一部の国を除いては、サービスの提供にも工夫が必要となるが、IT サービスの ASEAN 進出は始まったばかりで事例や情報は少ない。ASEAN 進出を成功させるには、事前に十分なフィジビリティスタディを行い、ターゲットに見合った戦略を練る必要がある。

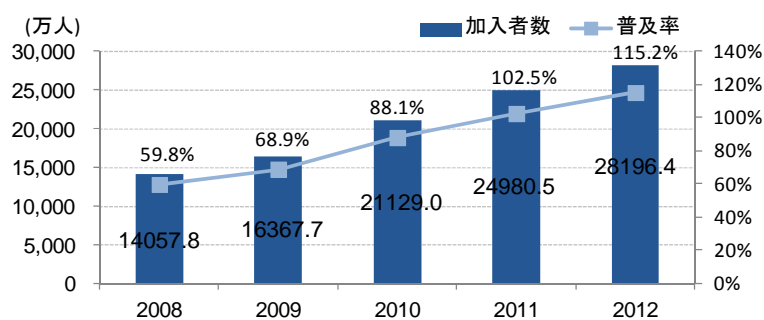
1. インドネシア ASEAN 最大の国土と人口を持つ



| | |
|------|---|
| 正式名称 | インドネシア共和国 |
| 首都 | ジャカルタ |
| 面積 | 186万平方キロメートル |
| 人口 | 約2億3770万人 |
| 言語 | インドネシア語 |
| 民族 | マレー系(約300種族) |
| 宗教 | イスラム教89%、キリスト教9.3%、ヒンズー教1.8%、仏教0.6%、その他 |



携帯電話加入者及び普及率の推移

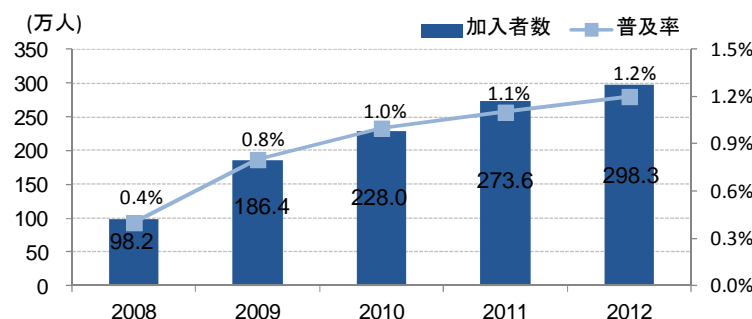


Source: ITU-World Telecommunication 2013

インドネシアのモバイル通信市場は、Telekomsel、Indosat、XL Axiata の主要 3 社で全体の 81%にあたる約 2 億人のユーザーを抱えている。3G は 2006 年 9 月から商用サービスが始まっており、W-CDMA 方式を採用している。

これら主要 3 社は、2012 年末より 4G(LTE)の試験運用を始めており、数年以内の商用化を目指している。

ブロードバンド加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

2011 年末時点でインターネット接続ライセンスを持つ企業は 204 社あり、国営の Telkom が 2001 年から ADSL の商用サービスを始めている。家庭への PC 普及率が高くないため、Warnet と呼ばれるインターネットカフェの利用が中心となっている。

2009 年 7 月には WiMAX のライセンスが 8 社に付与されているが、スマートフォンからインターネットを利用する人が増えており、モバイルからの利用者を含むインターネット利用者総数は人口の 80%にあたる約 1 億 8000 万人に上っている。

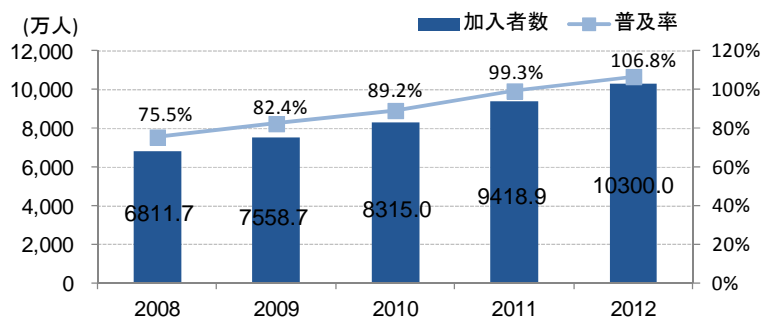


2. フィリピン 人材の質が高く親日的

| | |
|------|----------------------------------|
| 正式名称 | フィリピン共和国 |
| 首都 | マニラ |
| 面積 | 30万平方キロメートル |
| 人口 | 9583万人 |
| 言語 | フィリピン語、英語 |
| 民族 | マレー系が主体、中国系、スペイン系、これらとの混血、少数民族 |
| 宗教 | キリスト教(カトリック83%、その他10%)、イスラム教5%など |



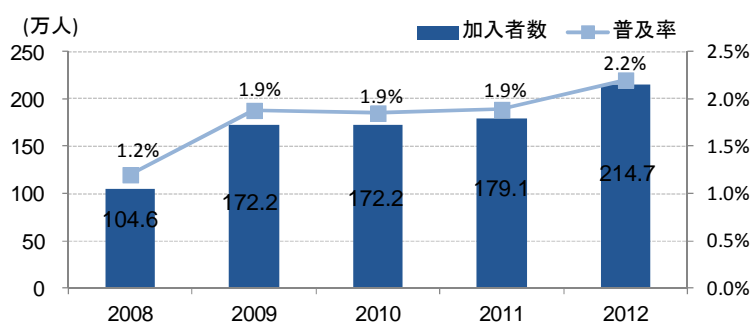
携帯電話加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

フィリピン長距離電話会社(PLDT)の100%子会社である SMART Communications と Globe Telecom がそれぞれ市場の67%と32%を持つほか、Piltel や Sun Cellular、Extelcom が参入している。2005年に大手2社を含む4社がW-CDMA方式で3Gサービスの提供を始めており、2012年3月末時点の契約者は約676万人。4G(LTE)は2011年5月から SMART が主要都市でサービスを始めており、2013年3月末時点で約5万人が契約している。

ブロードバンド加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

ブロードバンド市場のシェアは PLDT が 62.6%、Globe が 31.2%となっている。フィリピンは離島が多いこともあり固定通信網の整備が遅れているが、都市部ではケーブルテレビによるブロードバンド接続サービスも始まっている。また PLDT は 2011 年末からマニラの一部地域で FTTH の提供を始めている。

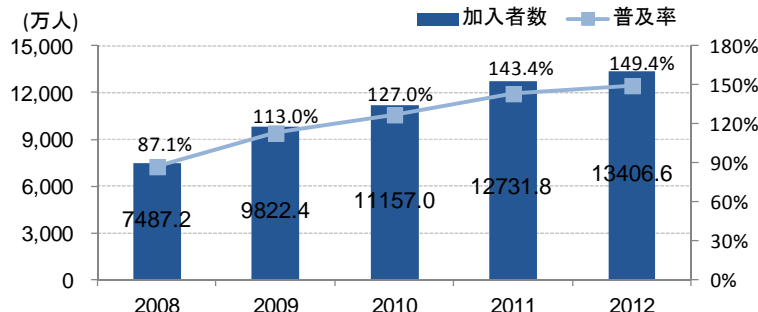
3. ベトナム 対外開放政策で飛躍的な成長遂げる



| | |
|------|-----------------|
| 正式名称 | ベトナム社会主義共和国 |
| 首都 | ハノイ |
| 面積 | 33万平方キロメートル |
| 人口 | 8826万人 |
| 言語 | ベトナム語 |
| 民族 | キン族86%、53の少数民族 |
| 宗教 | 仏教80%、カトリック7%など |



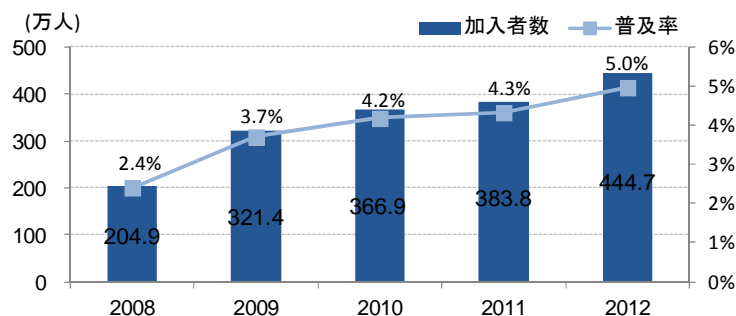
携帯電話加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

ベトナムのモバイル通信市場は 2011 年末時点で 7 社がサービスを提供しており、このうち 3G は 4 社が提供し、全国のカバー率は 91%、全人口のおよそ 15%が利用している。人民解放軍が出資する Viettel が 37%のシェアを持つほか、ベトナム郵便電気通信集団(VNPT)子会社のベトナムモバイルサービス(VMS、Mobifone)及びベトナムテレコムサービス(GPC、Vinafone)がそれぞれ約 30%のシェアを持つ。4G サービスは 2010 年 8 月に LTE のテストライセンスが 5 社に付与され、試験運用が行われている。

ブロードバンド加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

2009年6月までに首都のハノイでは99%の地域でFTTHでの接続が可能となり、2011年9月時点で約30万人が契約している。ADSLを含む市場シェアは、VNPTグループが63.2%、FPTが22.3%、Viettelが8.9%となっており、全国に3万5000カ所以上あるインターネットカフェが普及の中心を担っている。

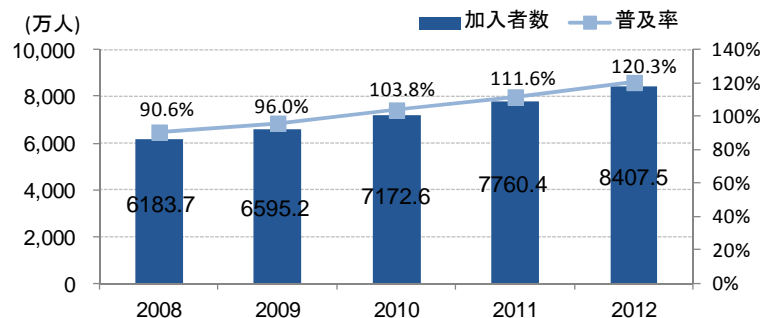
4. タイ デジタルコンテンツ分野を政府が奨励



| | |
|------|-----------------------|
| 正式名称 | タイ王国 |
| 首都 | バンコク |
| 面積 | 51万平方キロメートル |
| 人口 | 6759万人 |
| 言語 | タイ語 |
| 民族 | タイ族が主体、華僑、マレー系、山岳少数民族 |
| 宗教 | 仏教94%、イスラム教5% |



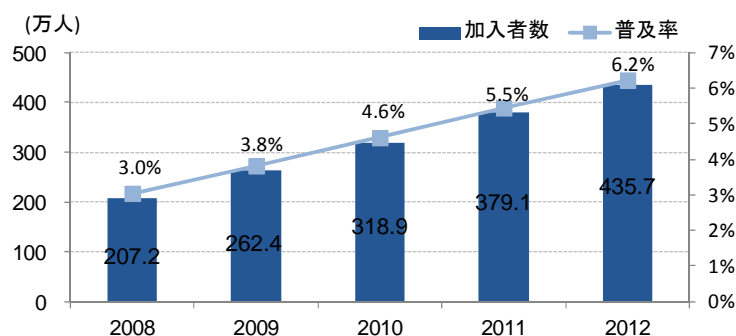
携帯電話加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

タイのモバイル通信事業は BTO(Build Transfer and Operate)方式が採用されており、主要な運営事業者として AIS、DTAC、True Move、CAT Telecom がある。3G サービスは、2009 年末に TOT(タイ電話公社)がバンコク市内限定で始めた後、2011 年 7 月から他の事業者も順次サービスをスタートし、全国をカバーするまでに広がった。4G(LTE)は AIS と TOT が共同で 2011 年末から商用化に向けた試験を進めている。

ブロードバンド加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

ブロードバンドサービスを提供する主な事業者は TOT、True、TT&T など、家庭への普及はまだ十分でない。しかし 2010 年末に政府が「国家ブロードバンド政策」を発表したことから FTTH の整備が期待される。一方で、WiFi ホットスポットの設置が進んでおり、True は 2011 年 9 月時点で全国に約 4 万カ所を設置。Triple T Broadband はモバイル事業者の AIS と提携して 2011 年末までに約 5 万カ所を設置している。

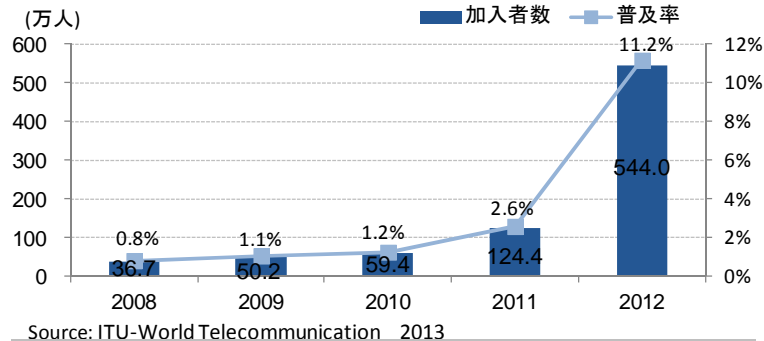
5. ミャンマー 民主化が進み経済発展に期待



| | |
|------|-------------------|
| 正式名称 | ミャンマー連邦共和国 |
| 首都 | ネピドー |
| 面積 | 67.6万平方キロメートル |
| 人口 | 6038万人 |
| 言語 | ミャンマー語 |
| 民族 | ビルマ族70%、少数民族 |
| 宗教 | 仏教89%、キリスト教、イスラム教 |

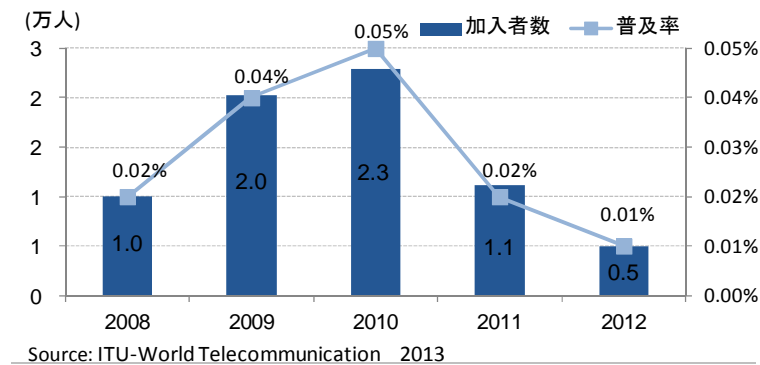


携帯電話加入者及び普及率の推移



国営のミャンマー郵電公社(MPT)が唯一のモバイル通信事業者として、2002年にGSM、2008年7月に3GのW-CDMAサービスを始めたが、非常に高額な初期費用が必要で政府関係者や富裕層のみしか利用できない状態だった。しかし2013年1月に政府は2016年までに携帯電話の普及率80%を目指すと宣言し、入札の結果2013年6月にノルウェーの国営企業 Telenor ASA 及びカタルの国営企業 Qatar Telecom がライセンスを獲得。手ごろなプリペイド契約が登場し、一気に利用者のすそ野が広がっている。

ブロードバンド加入者及び普及率の推移



ミャンマーでは固定回線からインターネットが利用できるのは720カ所あるインターネットカフェなどに限られており、携帯電話が普及し始めたことなどから、ブロードバンド加入数は2010年をピークに減少している。都市部ではWiMAXのサービスも始まっているが、インターネットの利用者総数は47.4万人で、普及率は1%以下にすぎない。しかし携帯電話の普及率が80%まで上昇すれば新たに4000万人以上の携帯電話利用者が生まれ、このうち約半数がモバイルインターネットユーザーになると見込まれている。

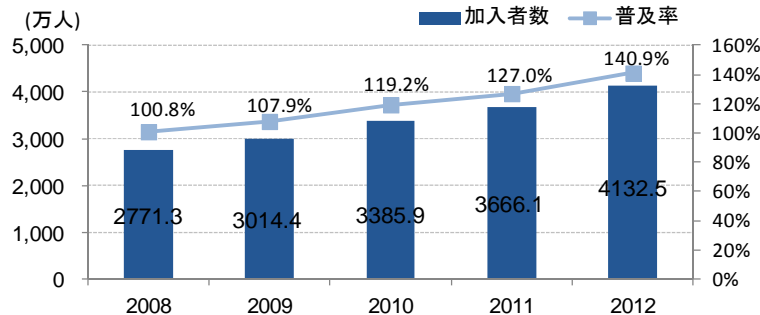


6. マレーシア 2020年の先進国入り目指して躍進

| | |
|------|-----------------------|
| 正式名称 | マレーシア |
| 首都 | クアラルンプール |
| 面積 | 33万平方キロメートル |
| 人口 | 2896万人 |
| 言語 | マレー語、中国語、タミール語、英語 |
| 民族 | マレー系67%、中国系25%、インド系7% |
| 宗教 | イスラム教61%、仏教20% |



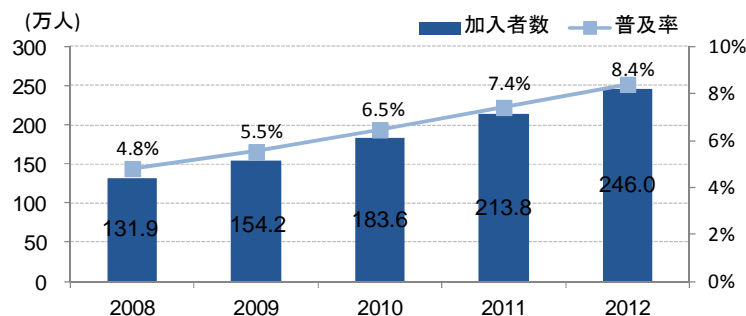
携帯電話加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

マレーシアのモバイル市場のシェアは Maxis Mobile が 39%、Telecom Malaysia(TM) 系列の Celcom Axiata が 31%、DiGi Telecom が 25%、最後発の U Mobile が 5% となっており、大手 3 社で 9 割以上を占める。2011 年 12 月末時点で 3G サービス利用者は 1000 万人を超え、スマートフォンの普及率も世界 4 位の 45%。4G(LTE)は、既存 4 社と新規参入となる Puncak Semangat などがサービス提供に向けて動いている。2013 年 4 月から LTE の商用サービスを始めた Celcom Axiata は、すでに 300 万人を超える利用者を持つ。

ブロードバンド加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

-0-

本レポートは、業界・企業に関する情報の提供を目的としたものであり、お客様の経営判断や購買、契約行為にあたってはお客様のご判断のもとに行っていただくようお願いいたします。本レポートは、クララオンラインが直接ご提供するという方法でのみ配布しておりますので、お問い合わせにつきましてはクララオンラインまでご連絡ください。本レポートのいかなる部分も、一切の権利は株式会社クララオンラインに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行うことを禁止いたします。なお本レポートに掲載されている第三者の企業名や商標、ロゴマークは個々の権利所有者に帰属します。また本レポートを日本国外で配布することは禁止いたします。

近隣の ASEAN 諸国に比べてブロードバンド普及率が高く、2011 年 12 月末時点で総加入数 214.8 万人のうち約 25 万が FTTH となっている。政府は 2015 年までの目標として全国の家計の 75% で高速インターネットが利用できるようネットワークの敷設を進めている。

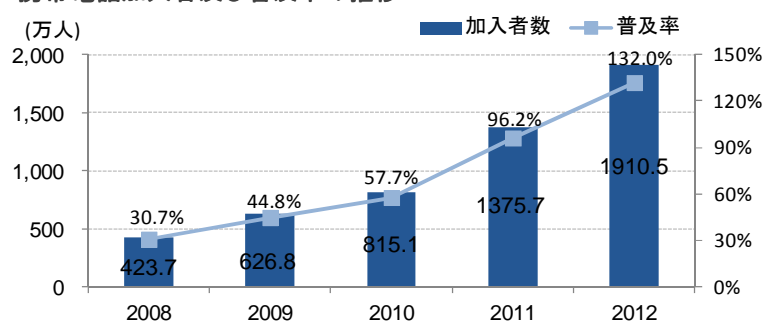


7. カンボジア

| | |
|------|---------------|
| 正式名称 | カンボジア王国 |
| 首都 | プノンペン |
| 面積 | 18万平方キロメートル |
| 人口 | 1452万人 |
| 言語 | クメール語 |
| 民族 | クメール人90% |
| 宗教 | 仏教96%、イスラム教2% |



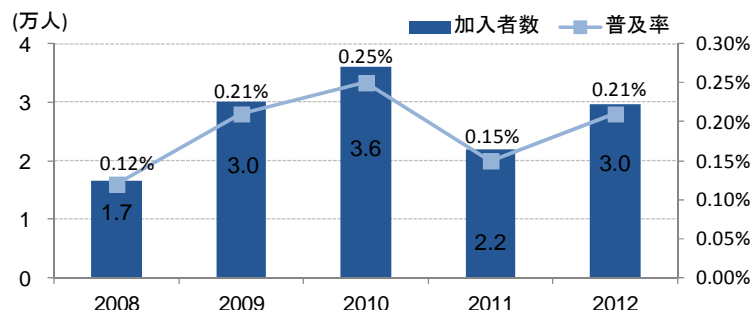
携帯電話加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

カンボジアにはモバイル通信キャリアが一時 9 社もあり再編や買収が進められている。現在シェアが大きいのは Metfone と CamGSM で、特に Metfone は 2008 年の参入からわずか 3 年で 500 万人以上の利用者を獲得した。契約はプリペイドが主だが、都市部では 3G が広範囲をカバーしており、一部では 3.5G も利用できるなど環境が整っている。

ブロードバンド加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

データ通信サービスが 2002 年に自由化され、現在は Metfone、Telecom Cambodia、Coge Tel、CamGSM など 15 社あまりがサービスを提供しているが、固定通信網の整備が遅れていることから普及は進んでいない。大都市では空港や飲食店、コンビニなどを中心に無料の WiFi スポットが増えている。

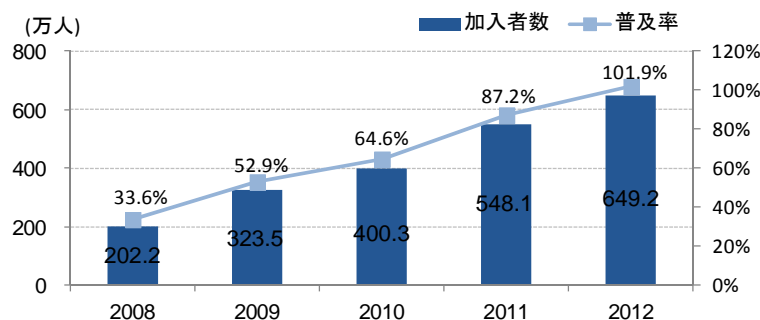


8. ラオス

| | |
|------|----------------|
| 正式名称 | ラオス人民民主共和国 |
| 首都 | ビエンチャン |
| 面積 | 24万平方キロメートル |
| 人口 | 638万人 |
| 言語 | ラオス語 |
| 民族 | ラオ族が主体、48の少数民族 |
| 宗教 | 仏教90% |



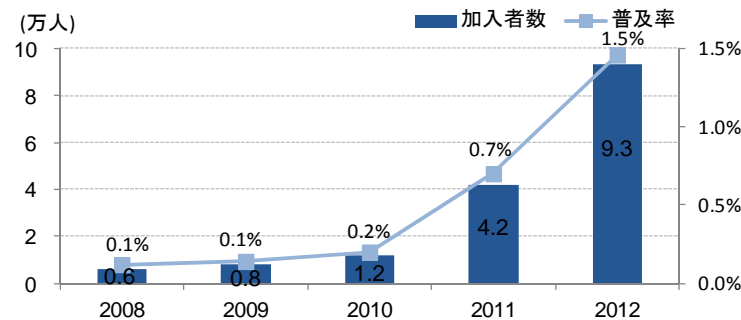
携帯電話加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

現在ラオスでは、Unitel、ラオテレコム(LTC)、ラオス電気通信公社(ETL)、Beeline Laoの4社がモバイル通信サービスを提供しており、市場シェアはそれぞれ39%、27%、24%、10%となっている。4社とも3Gサービスを提供しており、LTCがCDMA2000 1xEV-DO、他の3社はW-CDMAを採用している。最も早く3Gサービスを始めたLTCの3G契約数は2012年3月末時点で約55万、Unitelは同じく約53万となっている。

ブロードバンド加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

ラオスのブロードバンドは固定通信網の整備が遅れている上、料金の高さがネックとなって家庭への普及が遅れている。ADSL サービスを提供しているのは、LaoTel Internet、ETL Internet、Unitelなどで、2008年からはBeeline Lao、Planet Online、Sky Telecomの3社がWiMAXサービスを提供している。光ファイバーバックボーン自体は全国に整備されており、周辺の中国、ミャンマー、ベトナム、カンボジア、タイとも接続しているが、国内のローカル網の整備が遅れている。

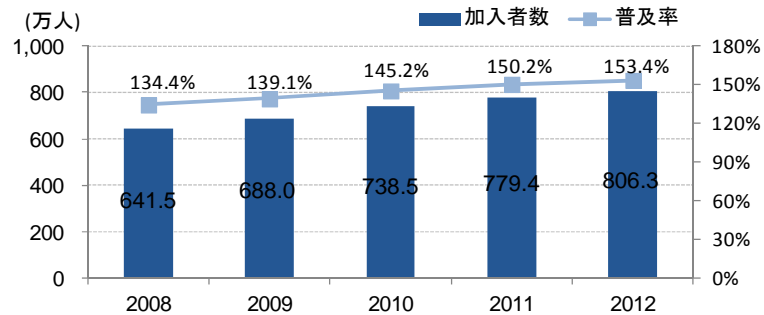


9. シンガポール グローバルビジネスの拠点

| | |
|------|-----------------------------|
| 正式名称 | シンガポール共和国 |
| 首都 | シンガポール |
| 面積 | 712.4平方キロメートル |
| 人口 | 518万人 |
| 言語 | マレー語、英語、中国語、タミール語 |
| 民族 | 中華系74%、マレー系13%、インド系9%、その他3% |
| 宗教 | 仏教33%、イスラム教15%、キリスト教 |



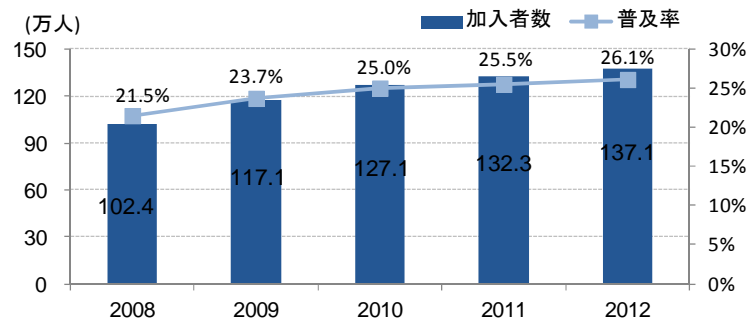
携帯電話加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

モバイル通信キャリアはシンガポールテレコム(SingTel)、StarHub、M1 の3社があり、市場シェアはそれぞれ 45.9%、28.2%、25.8%となっている。いずれも 2005 年 4 月までに W-CDMA の 3G サービスを始めており、3G 契約者は 2012 年末時点で全体の 75.9% を占める約 592 万人。また 3 社とも 4G(LTE)の商用サービスを始めており、SingTel は 2013 年中に LTE の人口カバー率 95%を目指している。

ブロードバンド加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

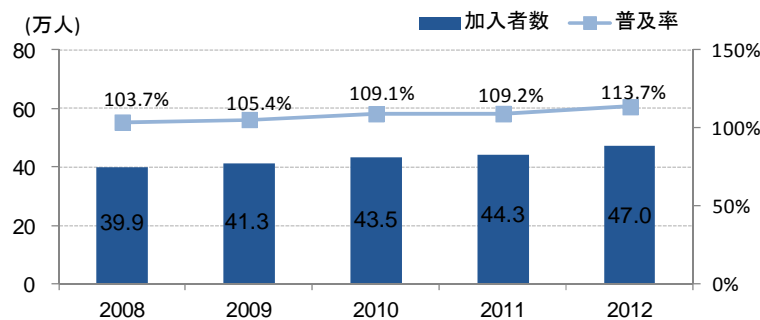
ブロードバンド市場では、SingTel と StarHub がそれぞれ 41.1%と 33.2%のシェアを持つ。このほか PacNet が 6.4%、M1 が 5.6%、QMax が 4.5%、その他中小の ISP 事業者がサービスを提供している。2011 年末時点で、xDSL とケーブルブロードバンドの加入者数は約 125 万人に達しており、高速な通信環境が整っている。また政府が積極的に無線ブロードバンドの普及を推進しており、学校やビジネス街等の人口集積地に通信事業者と協力してホットスポットを 7500 カ所以上設置している。

10. ブルネイ 東南アジアトップの給与水準で豊か

| | |
|------|-------------------------|
| 正式名称 | ブルネイ・ダルサラーム国 |
| 首都 | バンドル・スリ・ブガワン |
| 面積 | 5765平方キロメートル |
| 人口 | 42万人 |
| 言語 | マレー語、英語 |
| 民族 | マレー系65.7%、中華系10.9% |
| 宗教 | イスラム教67%、仏教13%、キリスト教10% |



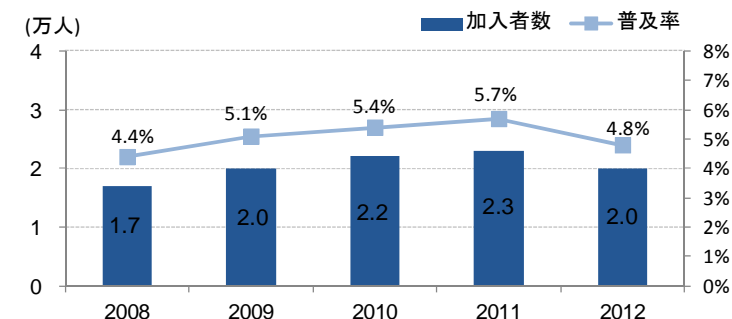
携帯電話加入者及び普及率の推移



Source: ITU-World Telecommunication 2013

ブルネイでは DST Communications と b-mobile の 2 社がサービスを提供している。いずれも 3G に W-CDMA を採用しており、2012 年 3 月末時点の加入者は約 26 万人。市場シェアは DST が 91.6%、b-mobile が 8.4%となっている。また DST は 2013 年中の 4G(LTE)サービス開始に向けて準備を進めている。

ブロードバンド加入者及び普及率の推移



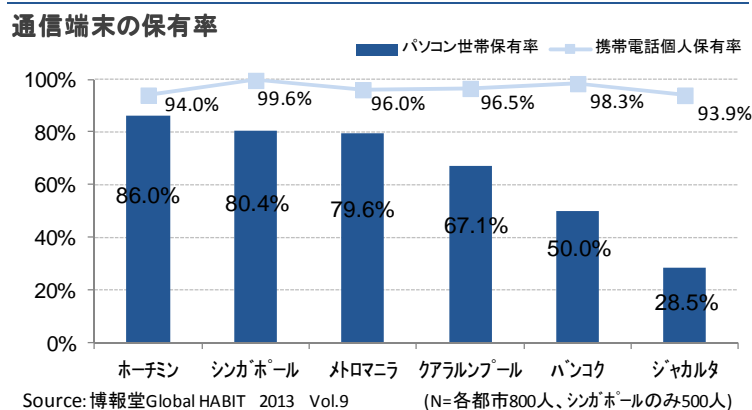
Source: ITU-World Telecommunication 2013

ブルネイ政府は 2008 年からインターネットの普及に注力しており、インターネット

利用率は 56%と高い。旧国営の Telecom Brunei Berhad は 2017 年までに全国に FTTH を敷設する計画を進めており、完了すれば人口の 87%余りが利用できるとしている。

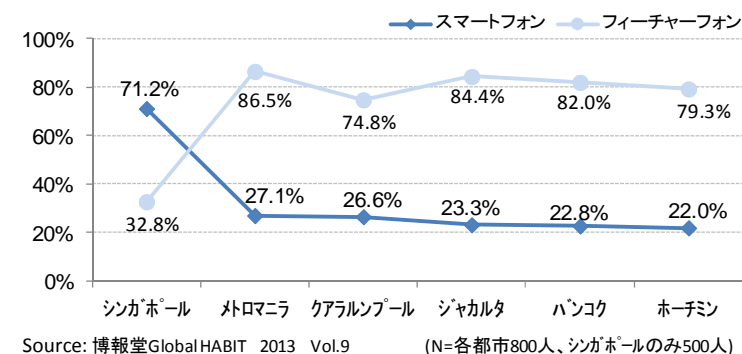
11. ASEAN に住む中上位収入層のサービス利用状況

ASEAN の主要都市に住む中上位収入層を対象に、博報堂が 2012 年に行った調査によると、携帯電話(スマートフォンまたはフィーチャーフォンのいずれかもしくは両方)の個人保有率はいずれの都市においても 90%を超えている。一方で、パソコンについてはタイのバンコク、インドネシアのジャカルタで世帯保有率が 50%を下回る状況となっており、職場にはパソコンがありインターネットができるが、自宅ではパソコンではなく携帯電話からインターネットを利用する姿が浮かび上がる。



各都市のスマートフォンとフィーチャーフォンの個人保有率をみると、中上位収入層であってもシンガポールを除いて約 8 割が現在もフィーチャーフォンを使っているようだ。なお東京はスマートフォンが 58.9%、フィーチャーフォンが 57.4%となっている。

スマートフォン・フィーチャーフォンの個人保有率



またスマートフォンでインターネットを利用する場所について見ると、自宅で利用する人が各都市で高い比率となっており、パソコン代わりに利用されていると推測できる。一方自宅外では、会社での利用が多いほかは都市によってまちまちで、特にネットカフェや無線LANスポットといった公共エリアでの利用状況は、当該都市の無線LAN環境の整備状態に左右される事が考えられる。また各都市の交通インフラの整備状況や主要な通勤手段の違いも利用率に影響を与えそうだ。このほか、4G サービスがスタートしているマレーシアのクアラルンプールやシンガポールで自宅外の利用率が高くなっている点も注目したい。

| | 平均保有率 | 自宅内 | 自宅外 | 自宅外 | | | | | |
|----------|-------|--------------|--------------|-------|--------------|--------|-----------|--------------|--------|
| | | | | 学校 | 会社 | ネットカフェ | 無線LANスポット | 電車・バス | 車・タクシー |
| シンガポール | 71.2% | 74.3% | 81.8% | 12.1% | 35.5% | 2.3% | 24.1% | 39.1% | 20.5% |
| マドニラ | 27.1% | 90.6% | 57.0% | 8.6% | 17.2% | 4.7% | 0.2% | 7.0% | 5.5% |
| クアラルンプール | 26.6% | 65.8% | 78.3% | 3.3% | 23.3% | 3.3% | 17.5% | 3.3% | 10.8% |
| ジャカルタ | 23.3% | 86.6% | 67.2% | 10.1% | 22.7% | 1.7% | 4.2% | 6.7% | 3.4% |
| バンコク | 22.8% | 85.3% | 87.4% | 25.3% | 40.0% | 3.2% | 13.7% | 18.9% | 11.6% |
| ホーチミン | 22.0% | 88.5% | 86.9% | 12.3% | 42.6% | 23.8% | 41.8% | 0.8% | 5.7% |

Source: 博報堂 Global HABIT 2013 Vol.9

スマートフォンでよく利用するサービス・機能(仕事での利用を除く)に関する調査では、SNS やチャットといったコミュニケーション系が上位に並んだ。同時に情報検索や電子メールのようなパソコンでよく利用されるサービスが、スマートフォンでも同様によく利用されている事が明らかになった。

| | 平均保有率 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|----------|-------|---------------------------|----------------------|---------------------------|----------------------|---------------------------|
| シンガポール | 71.2% | SMS (73.9%) | 電子メール (61.6%) | SNSの閲覧・書込み (59.6%) | 情報検索 (45.0%) | カメラ機能 (44.0%) |
| マドニラ | 27.1% | SNSの閲覧・書込み (75.0%) | チャット (51.6%) | 電子メール (38.3%) | 音楽のDL・聴く (32.8%) | SMS (32.0%) |
| クアラルンプール | 26.6% | SNSの閲覧・書込み (67.5%) | 情報検索 (54.2%) | SMS (50.8%) | 電子メール (43.3%) | チャット (35.0%) |
| ジャカルタ | 23.3% | SNSの閲覧・書込み (84.9%) | チャット (53.8%) | SMS (46.2%) | 電子メール (45.4%) | 情報検索 (42.9%) |
| バンコク | 22.8% | SNSの閲覧・書込み (56.8%) | チャット (52.6%) | 電子メール (38.9%) | 情報検索 (38.9%) | SMS (30.5%) |
| ホーチミン | 22.0% | ニュースを見る (75.4%) | 情報検索 (65.6%) | チャット (62.3%) | 電子メール (44.3%) | SNSの閲覧・書込み (41.8%) |

Source: 博報堂 Global HABIT 2013 Vol.9



なお Facebook の対人口普及率は、多い順にシンガポールが 65.64%、マレーシアが 53.94%、タイが 37.45%、フィリピンが 35.47%、インドネシアが 25.36%、ホーチミンが 21.63%で、日本は 17.19%となっている(2013年8月 Facebook 発表)。

ASEAN は 6 億の人口が集まる次の巨大市場と言われるが、これまで見たように携帯電話やインターネットの普及状況はまちまちとなっているため、参入にあたってはサービスの性質によってターゲット国を見極める必要があるだろう。さらにフィリピンやシンガポールのように英語話者がある程度多い国を除いては、ローカル言語でのサービス提供を検討する必要もある。IT サービスの ASEAN への進出は始まったばかりで事例や情報も少ないことから、事前に十分なフィジビリティスタディを行うことが、事業を成功に導く最初の一步となる。

- 本レポートに含まれる情報は一般的なご案内であり、包括的な内容であることを目的としておりません。また法律・条令の適用と影響は、具体的な状況によって大きく変化いたします。具体的な事業展開にあたってはクララオンライン コンサルティングサービスチームより御社の状況に特化したアドバイスをお求めになることをおすすめいたします。また本書の内容は 2013 年 9 月 2 日時点で編集されたものであり、その時点の法律及び情報、為替レートに基づいています。

本書はクララオンライン コンサルティングサービスチームにより作成されたものです。クララオンラインの中国、台湾、韓国、シンガポールなどアジア各国のインターネットコンサルティングサービスに関するお問い合わせは以下の連絡先までお気軽にご連絡ください。

asia@clara.ad.jp または +81(3)6704-0776